事業報告令和５年度　教育事業

「高校生キャンプ」～地域探究プログラム　オリエンテーション合宿～　【対 象】高校生

１．趣旨

高校生が身近な地域についての課題を発見し、オリエンテーション合宿を含む様々な体験活動を通して課題解決能力を身に付け、主体的に行動できる人材を育成する。また、地域について学び考えていく中で地域の良さを再発見し、郷土愛を育ませる。

２．事業の概要

（１）期　日　令和５年９月 16 日（土）～18 日（月）

（２）参加者　９人

（３）日　程

								10		11		12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22		23
9/16（土）								受付	開会式	講義「地域の実践」		昼食	フィールドワーク①「昆虫が未来を救う」～コオロギのスマート養殖～			講義・演習①「地域理解」	つどい	夕食	講義・演習①「地域理解」	講義・演習②「課題解決の基礎」	入浴	就寝準備		就寝
								自然の家					株式会社クリケットファーム			自然の家								

	6	7		8		9		10		11		12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22		23
9/17（日）	朝の支度	つどい	朝食	準備		フィールドワーク②「伝統的な昆虫食のこれから」～地元高校生の取り組み～						昼食	講義・演習③「地域課題の探究」		野外炊飯			講義・演習③「地域課題の探究」	発表①	講義・演習④「行動計画の基礎」	入浴	就寝準備		就寝
	自然の家					上伊那農業高校グローカルコース						自然の家												

	6	7		8		9	10		11		12		13
9/18（月）	朝の支度	つどい	朝食	清掃退所点検		講義・演習④「行動計画の基礎」	発表②	実践活動のためのガイダンス		閉会式	解散		
	自然の家												

（４）フィールドワーク先

①株式会社クリケットファーム

茅野市で先進的な IT を駆使したコオロギのスマート養殖を行っている。養殖工場内には常時コオロギ数万匹を飼育しているが、社員は 1 名のみで工場内の温度、湿度、空気中の水分量等はすべて AI で管理している。また、コオロギを使った製品を自社開発して販売している。

②上伊那農業高校グローカルコース

伊那市内の高校で、学習対象を「人」とした地域探究を軸としたコース。地域の伝統的な昆虫食「ざざ虫」の漁師の後継者が不足していることに目を向け、高校生の立場でできることを考え取り組んでいる。ざざ虫をより多くの人に食べてもらうために企業と連携し、「ざざ虫ふりかけ」を開発し、地元で販売している。

（５）企画運営のポイント

・探究テーマを長野県上伊那地域の伝統的な文化である「昆虫食」に絞って様々な活動を行うことで、探究の手法の習得にフォーカスした取り組みを行った。

・探究的な活動だけでなく、「野外炊飯」や「焚き火を囲んでの発表」など自然の家らしい活動も取り入れたプログラム構成で実施した。

・参加者の雰囲気や取り組み状況に合わせて、アイスブレイクを実施したり、当初の予定であった室内でのワークを体験的な野外活動へ変更したりと、参加者の行動や思考に合わせて柔軟に対応した。

（６）参加者の声（一部抜粋）

＜事業趣旨に関して＞

・伝えたいものがあるなら、それを誰にどのやり方でどう表現するのが効果的であるか学ぶことが出来ました。地域課題などについても他人事ではなく自分事として改めて考え直すきっかけになりました。行う活動を決めたら、次はもっと細かい行動や詳細を決めていく。実際にグループで話し合っていくうちに考えが自分の中で整理されていっているのを感

じました。

・地方自治体をこれから活発にしていくために今後何が必要なのか考えることが出来た。高遠を例にしてどんなことをすべきなのか考え学ぶことが出来た。そこから自分の住んでいる地域にはどんな問題があって、何をすべきなのか落とし込んで考えることが出来た。

＜プログラムを通して＞

・なにかの要素を掛け算することだったり、2 つの合理性の観点から見てみたり、how と同時に why も大切にすることだったり、色んな知らないことを吸収できた時間でした。 物事を見る多角的な視点が持てそうです。

・同じテーマだけど、考えや解決策やそもそも現状分析から違っていて、その具体的なアイデアもとても興味深かったけど、色んな人と同じ研究課題をやることの意義が改めて分かった気がしました。

・具体化するということを実行できた機会にできました。発表で人に伝えるという言語化の過程があることで、発信すること、分かりやすくすることなどを意識することが同時にできてよかったです。

・企業の方との繋がり方や地域の人への広め方など、先行事例としてとても勉強になりました。また、宣伝媒体としての映画やワークショップなど、効果的な方法も知れてよかったです。上伊那固有のざざ虫の文化ということを何年も引き継いで努力を重ねている姿がとても印象的で、自分もこういう姿に近づきたいなと思いました。

・クリケットファームさんは　IT×マーケティング×農業×SDGs＝クリケットファーム　というような一見かけ離れているように見える様々な知識や工夫、技術を総動員している印象がありすごいと思った。将来性も、期待も、課題もある昆虫食産業なのだと感じた。

＜活動の様子＞

【講演　地域づくりの実践】

【FW①　株式会社クリケットファーム】

【昆虫の実食】

【ワークシートでの探究活動①】

【FW②　上伊那農業高校グローカルコース】

【野外炊飯】

【硫黄沢でざざ虫採集】

【ワークシートでの探究活動②】

【発表】

（７）成果と課題

①参加者アンケート結果　アンケート回収６名（回収率 67%）

高校生キャンプ全体を通して	満　足　：６名	１００％
	やや満足：０名	０％
	やや不満：０名	０％
	やや不満：０名	０％

②成果

・複数枚のワークシートを用いたラベルワークを実施することで、参加者の思考の過程が整理されるとともに、先を見越した思考や振り返っての思考を促すことができた。また、ワークシートの枠組みを押さえつつも、自分たちでそれをさらに発展させて活用する姿が見られるなど、非常に深い学びとなった。

・焚き火を囲みながら活動するという非日常的な雰囲気の中で探究的なワークを行うことで、参加者の緊張感がほぐれ、より集中力が高まった。その結果、参加者同士の対話が活発になり、主体的に活動に取り組む姿が見られた。

・実際に昆虫を食べるだけでなく、「自分で昆虫を捕まえる」という体験活動を取り入れたことで、昆虫に対する嫌悪感が薄れ、昆虫食に対してもより前向きな意識や考え方をすることができるようになった。

③課題

・フィールドワーク先での体験的な活動をあまり行うことができなかった。フィールドワーク先との打合せでもう少し体験的な活動を取り入れた活動内容になるよう検討したい。